

昼間の仕事を終えた青年たちが、夜になるのを待ちかねて、伊策の家に集ってきました。伊策は、その青年たちに、新しい珠算を教えてみました。

かけ算九九だけ覚えれば、そろばんで割り算もできる方法——青年たちは「二一天作の五」を覚えなくてもよいので、だんだんと珠算に興味をもつようになっていきました。

「実際に教えてみると、こんなにわかってもらえるのに、先生方は、どうしてためしてくれないのだろう。まだ知らない

